

科目名	医療概論	科目コード	N20001
対象学年	1年	開講学期	前期 15時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	吉岡 利忠		
概要	将来、看護職として医療に携わる際に必要とされる、医学・医療の現状について理解する。生物学の基礎、生体の機能、医学発達の歴史、現在の医療体系とその問題点、医学と看護学の連携や共通点・相違点などについて学習する。		
到達目標	分子・細胞・組織・臓器レベルで生体の形態・機能の概略を知り、疾病との関連性について学ぶ。科学の進歩、現代医学・医療、疾病構造の変化などについて知る。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体の誕生 2. 生体のしくみ 3. 健康の概念 4. 体力と健康 5. 生活習慣病 6. 遺伝情報と遺伝子病 7. 医療分析器械の発達 8. 看護師の裁量権の問題 		
評価方法	課題レポートによる評価および授業中の質問などに対する返答評価		
教材・教科書	プリントを配布する。		
留意点			

科目名	人体の構造 I	科目コード	N20002
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	片桐 展子		
概要	<p>看護の対象となる人体の構造についての基礎知識を習得する。 身体の部位、器官の位置・方向についての表現法、人体を構成する各器官や臓器の正しい名称と相互の位置関係を学ぶ。 生命維持に必要な器官のうち、消化器系、呼吸器系、循環器系、内分泌系、生殖器系などの内臓系の基本構造を学ぶ。人体の内部にある各器官を、自分自身の身体の各部分に投射し対比させることによって、これらの器官の相互の位置関係を理解する。</p>		
到達目標	<p>人体の各部位の表し方、臓器や器官の名称とその位置、それぞれの器官の構造について基礎知識を修得する。 内臓系を中心に人体を器官系統別に学習し、消化器系、呼吸器系、循環器系(血液と心臓)、生殖器系(男性と女性)、内分泌系について理解する。各器官系を学生自身が各自の身体の部分に投影させて対比し、相互の位置関係を修得できるようにする。 人体模型標本や画像を教材とした講義と実習を行い、人体の各部位、各臓器の立体像や位置関係を理解できるようにする。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞、組織、器官系 2. 身体の部位、内臓総論 3. 消化器系 1 消化器系総論、口腔、食道 4. 消化器系 2 胃、小腸、大腸 5. 消化器系 3 付属腺(唾液腺、肝臓、胆嚢、膵臓) 6. 呼吸器系 7. 循環系 1 循環系総論、心臓 8. 循環系 2 体循環、肺循環、動脈系、静脈系 9. 循環系 3 リンパ系、胎児循環 10. 泌尿器系 11. 男性生殖器系 12. 女性生殖器系 13. 内分泌系 14. 内臓系の実習 15. 人体と構造 I 試験 		
評価方法	各章のまとめと実習レポート 40%、中間小試験と定期試験 60%によって評価する。		
教材・教科書	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「入門人体解剖学」改訂第5版 南江堂 藤田恒夫著 (2) 「ヒューマンボディ からだの不思議がわかる解剖生理学」エルゼビア・ジャパン社 片桐康雄ら監訳 <p>(2)は「人体の機能」の教科書である。</p>		
留意点			

科目名	人体の構造 II	科目コード	N20003
対象学年	1年	開講学期	後期 30時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	片桐 展子		
概要	<p>看護の対象となる人体の構造についての基礎知識を習得する。人体を構成する各臓器や器官の正しい名称と相互の位置関係を学ぶ。身体を構成する器官系のうち、運動系(骨系と筋系)、神経系、感覚系について、器官系統別に学ぶ。全身の骨格の構成、全身の筋の名称、作用、特徴などの基礎知識を身につける。感覚系では、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、皮膚感覚などの各感覚器の構造や働きを学ぶ。神経系では中枢神経系、末梢神経系、自律神経系について、構造と重要な機能を理解する。</p>		
到達目標	<p>骨系では全身の骨格の構成、骨の名称、骨の形状、骨の連結、関節、靭帯について学ぶ。筋系では頭蓋、体幹、上肢、下肢の各部の筋の名称、作用、特徴などの基礎知識を身につける。神経系では中枢神経系、末梢神経系、自律神経系の構成、それぞれの重要な働きを理解する。感覚系では各感覚器の特殊な構造を学ぶ。</p> <p>人体模型標本を用いて、また、自分自身の身体各部を動かして、骨格系や筋肉系を各自の身体の部分に投影し対比させて、これらの相互の位置関係や働きを理解する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨系 1 骨学総論、中軸骨格(頭蓋) 2. 骨系 2 中軸骨格(脊柱、胸郭) 3. 骨系 3 付属骨格(上肢、下肢) 4. 筋系 1 筋学総論、筋の基本形、頭部の筋 5. 筋系 2 体幹の筋、胸部・腹部の筋、上肢の筋、下肢の筋 6. 筋系 3 関節と靭帯、運動 7. 神経系 1 神経系総論 8. 神経系 2 中枢神経(脳と脊髄) 9. 神経系 3 末梢神経(脳神経) 10. 神経系 4 末梢神経(脊髄神経) 11. 神経系 5 自律神経 12. 感覚器系(眼、耳、皮膚、鼻、舌) 13. 骨系、筋系、神経系、感覚系の実習 14. 人体の発生(初期発生) 15. 人体の構造 II 試験 		
評価方法	各章のまとめと実習レポート 40%、中間小試験と定期試験 60%によって評価する。		
教材・教科書	<p>(1)「入門人体解剖学」改訂第5版 南江堂 藤田恒夫著</p> <p>(2)「ヒューマンボディ からだの不思議がわかる解剖生理学」エルゼビア・ジャパン社 片桐康雄ら監訳</p> <p>(2)は「人体の機能」の教科書である。</p>		
留意点			

科目名	人体の機能 I	科目コード	N20004
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	片桐 康雄		
概要	<p>適切な看護を行なうには、人体の構造と機能や病気について十分な知識を身につける必要があります。人体は多数の器官で構成され、それらの器官が互いに連携しながら正常な機能を維持し、健康な身体を支えています。</p> <p>「人体の機能 I」では生命を維持するために必要な細胞や血液・循環器系、呼吸器系、腎・泌尿器系、消化器系、体温調節の正常な機能について詳しく学びます。人体の内部環境の恒常性(ホメオスタシス)がどのような機構で保たれているかを理解できるでしょう。いろいろな疾病は正常な機能が破綻した状態であり、正常な機能を理解することによって疾病の発症原因を理解することができます。</p>		
到達目標	到達目標は「看護師保健師国家試験」の出題基準のレベルに設定してあります。授業内容を理解することが国家試験の合格につながります。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の生理機能とは。ホメオスタシス・内部環境の恒常性 2. 体液 3. 血液 I 4. 血液 II 5. 循環系 I 6. 循環系 II 7. 循環系 III 8. 呼吸器系 I 9. 呼吸器系 II 10. 消化器系 I 11. 消化器系 II 12. 腎・泌尿器系 I 13. 腎・泌尿器系 II 14. 心電図実習 15. まとめ 		
評価方法	各章が終わる毎に「到達度判定試験」(40%)を行います。期末試験(50%)、レポート(10%)など全てを対象として総合評価します。出席は厳守すること。		
教材・教科書	教科書:「ヒューマンボディーからだの不思議がわかる解剖生理学」 第3版 片桐康雄ら監訳 エルゼビア・ジャパン 2012 講義では使用するスライドと同じ内容のプリントを配布します。		
留意点	講義は「人体の構造」とほぼ並行して進められます。構造と機能を関連づけて理解するように留意してください。		

科目名	人体の機能Ⅱ	科目コード	N20005
対象学年	1年	開講学期	後期 30時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	片桐 康雄		
概要	<p>「人体の機能Ⅱ」では内分泌系、神経系、筋・運動系、感覚系の正常な機能について学び、感覚情報の伝達や運動がどのような生理機構で発揮されるのか、また、生体機能の調節が常に複数の系の協調によって行われることを学びます。</p>		
到達目標	<p>到達目標は「看護師保健師国家試験」の出題基準のレベルに設定してあります。授業内容を理解することが国家試験の合格につながります。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体温調節 2. 免疫 3. 内分泌系Ⅰ 4. 内分泌系Ⅱ 5. 内分泌系Ⅲ 6. 神経系Ⅰ 7. 神経系Ⅱ 8. 神経系Ⅲ 9. 神経系Ⅳ 10. 筋・運動系Ⅰ 11. 筋・運動系Ⅱ 12. 感覚系Ⅰ 13. 感覚系Ⅱ 14. 感覚系Ⅲ 15. まとめ 		
評価方法	<p>各章が終わる毎に「到達度判定試験」(40%)を行います。期末試験(50%)、レポート(10%)など全てを対象として総合評価します。出席は厳守すること。</p>		
教材・教科書	<p>教科書：「ヒューマンボディーからだの不思議がわかる解剖生理学」 第3版 片桐康雄ら監訳 エルゼビア・ジャパン 2012 講義では使用するスライドと同じ内容のプリントを配布します。</p>		
留意点	<p>講義は「人体の構造」とほぼ並行して進められます。構造と機能を関連づけて理解するように留意してください。</p>		

科目名	病理学	科目コード	N20006
対象学年	2年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	田中 正則		
概要	<p>「病理学」という学問領域は、(1) 病気の原因を追究して、(2) 病気に伴い患者の身体の中で、どのような変化が生じているのかを明らかにして、疾病の成り立ちを理解する分野である。さらにこれらをもとに、(3) 患者の病気を診断する(病理診断)、(4) 病気の予防に貢献する、という医療分野の役目も担っている。このような病理学の本質と役割を理解するための授業を行う。</p>		
到達目標	<p>「病理学」の授業では、代謝障害・循環障害・炎症・免疫異常・腫瘍などの総論に加えて、循環器・呼吸器・造血器・消化器・泌尿生殖器・運動器・神経系などの各臓器における主要な疾病(疾患)の成り立ちを理解し、これらを習得することを目標とする。</p>		
授業内容	<p>第1回 組織と細胞障害 第2回 修復と再生 第3回 循環障害 第4回 炎症 第5回 免疫 第6回 腫瘍 第7回 循環器の疾患 第8回 呼吸器の疾患 第9回 消化器の疾患 第10回 内分泌の疾患 第11回 性器の疾患 第12回 造血器の疾患 第13回 中枢神経の疾患 第14回 運動器の疾患 第15回 まとめ</p>		
評価方法	<p>定期試験(90%)により評価し、出席(10%)を加味する。 試験で成績不良の学生に対しては、再試験を行う可能性がある。</p>		
教材・教科書	講義ノート(初回講義で配布)		
留意点	<p>「病理学」は、疾患の治療や看護の基盤となる分野で、しっかりと身につけてほしい。配布した講義ノートは毎回持参すること。</p>		

科目名	薬理学	科目コード	N20007
対象学年	2年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	元村 成		
概要	<p>薬理学とは単に薬の名前と何の病気に効くのかを覚えれば良い科目ではない。薬をどうやったら効かせることができ、薬はその病気にどうやって効くのかを知り、そのためにはその病気がどうやって起こるのかを知る必要がある。その薬は化学物質であり、ヒトの体の中でどのような形で存在し、どのくらいの量が必要で、副作用とはどういうことで、薬の飲み合わせではどんなことが起こり、それを防ぐためにはどうしたら良いのか等々を、薬力学、薬物動態学、薬物遺伝学、臨床薬理学、毒科学といった科学的なEBMに則った薬物治療学を学習する。</p>		
到達目標	<p>現代の医療はチーム医療である。特に看護師は患者と一番面と向かう職種である。患者と医師の橋渡しの役割も要求される。そんな時、間違った薬の知識、科学的EBMに基づかない憶測の薬の知識で患者に接することは許されない。薬の投与にあたっては、常に何故なのかを考え、いつも患者を慎重に観察し、副作用を早期に見つけ出し、最善の薬物治療を担うチーム医療の一員としての最低限の薬の知識を身に付ける。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬理学入門:薬とは?薬力学:薬物の作用点、受容体・生理活性物質 2. 薬理的解析;薬は用量である、用量反応曲線、治療係数 3. 薬物動態学:吸収・分布・代謝・排泄、治療薬物モニタリング 4. 薬物遺伝学;個体差、薬物代謝酵素の遺伝子多型、薬物相互作用 5. 自律神経系作用薬:アドレナリン作動薬、アドレナリン受容体拮抗薬 6. ムスカリン受容体拮抗薬、神経節遮断薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬 7. 中枢神経系作用薬:全身麻酔薬、催眠・抗不安薬、抗痙攣薬 8. 抗精神病薬、抗うつ薬、パーキンソン病治療薬、麻薬性鎮痛薬 9. 中間試験 10. 心臓・血管系作用薬:抗不整脈薬、抗狭心症薬、抗高血圧薬、心不全治療薬、利尿薬、血液作用薬 11. 抗アレルギー薬、抗炎症薬、免疫治療薬、副腎皮質ステロイド 12. 呼吸器・消化器系作用薬:気管支喘息治療薬、胃潰瘍治療薬 13. 内分泌系・物質代謝作用薬:ホルモン、ビタミン、抗糖尿病薬 14. 抗感染症薬:抗菌薬、抗ウイルス薬、消毒薬、抗生物質各論 15. 抗悪性腫瘍薬、漢方薬 		
評価方法	<p>前半8回講義が終わったところで中間試験を行い、後半7回分で別途期末試験を筆記試験で行う。点数配分は中間80点、期末70点とし、それに出席点15点、レポート評価点15点を加えて合計180点とし、100点換算して60点を以って合格とする。</p> <p>再試験については、全範囲とし100点満点で60点を以って合格とする。</p>		
教材・教科書	<p>・系統看護学講座・専門基礎分野「疾病の成り立ちと回復の促進」[3]薬理学 大鹿英世ほか著、2013年2月1日発行 第12版第5刷、医学書院</p> <p>・パワーポイントで作成の講義資料を配布する。</p>		
留意点	<p>授業の進度が速いので、しっかり予習・復習をすること。</p> <p>1年次に学習した解剖学(形態学)、生理学(機能学)をきちんと復習すること。</p>		

科目名	栄養代謝学	科目コード	N20008
対象学年	1年	開講学期	後期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	三村 純正		
概要	<p>ヒトが健康を維持し、活動していくためには栄養素の摂取が必要です。栄養素の種類や役割、摂取された栄養素の消化・吸収・代謝の仕組みについて学びます。また、肥満や糖尿病、高脂血症などの代謝性疾患の原因について学び、健康、医療における栄養学の重要性について理解を深めます。これに加えて、最近よく目にする機能性食品やサプリメントなどについても言及します。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養素や生体を構成する物質の種類や役割を理解する。 2. 栄養素や生体内物質の代謝の仕組みを理解する。 3. 代謝の異常によって起こる様々な疾患・病態の発症機構を理解する。 4. 医療、実生活において栄養学がどのように活用されているか理解する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養代謝学概論・生化学の基礎知識 2. 生体を構成する物質(1) 糖質 3. 生体を構成する物質(2) 脂質 4. 生体を構成する物質(3) タンパク質・核酸 5. 生体を構成する物質(4) 水と無機質・血液と尿 6. 生体を構成する物質(5) ホルモンと生理活性物質 7. 生体内の物質代謝(1) 酵素・ビタミンと補酵素 8. 生体内の物質代謝(2) 糖質代謝1 9. 生体内の物質代謝(3) 糖質代謝2・脂質代謝1 10. 生体内の物質代謝(4) 脂質代謝2 11. 生体内の物質代謝(5) タンパク質代謝 12. 生体内の物質代謝(6) 核酸、ポルフィリン代謝 13. 生体内の物質代謝(7) 代謝の異常 14. 遺伝情報とその発現 遺伝情報・先天性代謝異常 15. まとめ 		
評価方法	<p>期末試験(80点)と出席状況・授業中の問題への解答(20点)から総合的に評価します。</p>		
教材・教科書	<p>(1) 系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 人体の構造と機能[2] 医学書院 (2) 系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能[3] 医学書院</p>		
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ◆ (1)の教科書の内容に沿って講義、試験を行います。(2)の教科書は参考書とします。 ◆ 復習として、前回の講義で学習した章の章末問題を解いてくること。 ◆ 毎回、授業中に問題(一問)を出します。(出席確認を兼ねる) 		

科目名	微生物と感染症	科目コード	N20009
対象学年	1年	開講学期	後期 30時間
必修・選択	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	長内 理大		
概要	<p>感染症患者の看護に必要な生体防御機構と免疫機構およびこれらと関係の深い感染症の病態、症状、治療について学びます。とくにこの講義では、エイズ、SARS、インフルエンザなどの新興感染症の症状や治療、院内感染症などについて触れ、これらの疾患について治療や看護、感染予防に対する理解を深めます。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染源・感染経路・感受性者を理解できる 2. 新興感染症と再興感染症を理解できる 3. 感染症の病態を理解できる 4. 感染に対する生体防御機構を理解できる 5. 感染症の予防・治療法を理解できる 6. 院内感染とその対策について理解できる 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物と感染症 2. 新興感染症と再興感染症 3. 感染症の伝播(1) 4. 感染症の伝播(2) 5. 感染症の成立 6. 感染・発症と予防(1) 7. 感染・発症の予防(2) 8. 病院感染 9. 感染症の検査と治療 10. 感染症に対する防御機構(1) 11. 感染症に対する防御機構(2) 12. 代表的な感染症(1) 13. 代表的な感染症(2) 14. 代表的な感染症(3) 15. まとめ 		
評価方法	<p>試験(90%)によって評価します。ただし、授業態度(出席回数を含む 10%)を評価に反映します。詳細は、授業開始時に説明します。</p>		
教材・教科書	<p>小熊恵二・東 匡伸編集「コンパクト微生物学」(南江堂)</p>		
留意点	<p>普段から感染症に広く興味を持つことを強く希望します。</p>		

科目名	疾病論 I	科目コード	N20010
対象学年	2年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	山辺 英彰		
概要	主に内科系疾患の原因、病態生理、診断、治療について概説する。		
到達目標	上記のことがらについて理解することができる。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病の原因と治療法概論 2. 呼吸器疾患の検査法 3. 呼吸器疾患の病態と治療 4. 循環器疾患の検査法 5. 循環器疾患の病態と治療 6. 腎疾患の検査法、病態と治療 7. 膠原病の検査法、病態と治療 8. 血液疾患の検査法、病態と治療 9. 感染症の検査法、病態と治療 10. 消化器疾患の検査法 11. 消化器疾患の病態と治療 12. 代謝性疾患の検査法、病態と治療 13. 内分泌疾患の検査法、病態と治療 14. 神経疾患の検査法 15. 神経疾患の病態と治療 		
評価方法	試験(100%)によって評価する。		
教材・教科書	プリントを用意します。		
留意点			

科目名	疾病論Ⅱ(精神神経科学)	科目コード	N20011
対象学年	2年	開講学期	前期 6時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	吉村 哲明		
概要	精神疾患に関する基礎的知識を習得することを目標に、精神疾患の成因や症状を理解するとともに、代表的精神疾患である統合失調症と気分障害の概要を学ぶ。		
到達目標	精神障害の成因および精神症状について理解する。 統合失調症と気分障害について、疾病概念、病型、症状、治療などの概要を理解する。		
授業内容	1. 精神障害の成因および精神症状 2. 統合失調症の診断と治療 3. 気分障害の診断と治療		
評価方法	出席状況および学期末試験の結果などをもとに評価する。		
教材・教科書	資料を配布する。教科書は指定しない。		
留意点			

科目名	疾病論Ⅱ(眼科)	科目コード	N20011
対象学年	2年	開講学期	前期 4時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	高橋 大介		
到達目標	白内障、緑内障などの主な眼科疾患の病態と眼科疾患患者の看護に必要な知識を理解することを目的とします。		
授業内容	1. 目の機能と構造 2. 検査 3. 白内障・緑内障などの眼科疾患		
評価方法	出席(10%)と筆記試験(90%)		
教材・教科書	医学書院 系統看護学講座 専門17『眼』成人看護学 [13] 1,800円		
留意点	欠席しないこと		

科目名	疾病論Ⅱ(泌尿器科学)	科目コード	N20011
対象学年	2年	開講学期	前期 4時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	古家 琢也		
到達目標	①泌尿器科に特有の癌に対する知識を深める ②泌尿器科癌の検査・診断・治療に関して理解を深める。		
授業内容	1.前立腺癌 2.膀胱癌		
評価方法	試験(100%)により評価を行う		
教材・教科書	特に指定はない		
留意点			

科目名	疾病論Ⅱ(皮膚科学)	科目コード	N20011
対象学年	2年	開講学期	前期 4時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	金子 高英		
到達目標	体の最外層に位置する皮膚は、物理的・化学的障害を防御するとともに、内臓疾患を反映して多彩な反応を示す臓器である。本講義では、皮膚の構造、発疹のでき方、ならびにその特徴的所見を理解するとともに、皮膚疾患をもつ患者の看護について学ぶことを目標とする。		
授業内容	1. 皮膚科学(総論) 2. 皮膚科学(各論)		
評価方法	試験(100%)		
教材・教科書	新体系看護学 皮膚疾患		
留意点			

科目名	疾病論Ⅱ(耳鼻咽喉科学)	科目コード	N20011
対象学年	2年	開講学期	前期 4時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当者	阿部 尚央		
到達目標	① 耳鼻咽喉科疾患に関する検査・診断・治療について基本的な理解を深める。 ② 耳鼻咽喉科領域の癌、いわゆる頭頸部癌に対する知識を深める。 人工内耳の知識に触れる		
授業内容	1. 耳鼻咽喉科学 2. 頭頸部外科学		
評価方法	試験(100%)により評価を行う		
教材・教科書			
留意点			

科目名	疾病論Ⅱ(麻酔科)	科目コード	N20011
対象学年	2年	開講学期	前期 4時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	遠瀬 龍二		
到達目標	外科手術に必要な麻酔に関する知識と患者管理について学習すること。		
授業内容	1. 麻酔とは 2. 全身麻酔 3. 脊椎麻酔 4. 硬膜外麻酔 5. 回復室での管理		
評価方法	出席(10%)と筆記試験(90%)		
教材・教科書			
留意点	欠席しないこと		

科目名	疾病論Ⅲ(外科)	科目コード	N20012
対象学年	2年	開講学期	後期 18時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	百川 健・賀佐 富二彦		
概要	胃、腸、肝胆膵など消化器や、乳腺、甲状腺の主な疾患について概説し、主としてそれらの外科的治療、周術期管理などにつき学習する。		
到達目標	消化器や乳腺、甲状腺の生理、疾患について学ぶ。 それらの疾患に対する外科的治療(手術)に関する知識を習得する。 術前・術後管理など、周術期の看護処置に対する理解を深める。		
授業内容	<p>【百川 健 担当】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器疾患 (開胸術・肺切除術など) 2. 循環器系疾患 (心臓手術、血管手術) 3. 食道再建術 <p>【賀佐 富二彦 担当】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 甲状腺 ② 乳腺 ③ 胃・十二指腸 ④ 小腸・大腸 ⑤ 肝・胆・膵 		
評価方法	期末試験(90%)、レポート(10%)などで評価する。		
教材・教科書	医学書院 系統看護学講座 別巻② 臨床外科看護各論		
留意点	内容が多いので、予習を。疑問点は遠慮なく質問してください。		

科目名	疾病論Ⅲ(歯科口腔外科学)	科目コード	N20012
対象学年	2年	開講学期	後期 4時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	大溝 勲		
到達目標	口腔および歯の機能は、人間が生命を維持するうえで最も大切な食物の摂取や、呼吸の機能、人とコミュニケーションをとるための発音機能、審美機能などである。これらの機能が損なわれると生命維持がおびやかされるだけでなく、精神的な問題にも反映しやすい、患者の心理を理解し適切な看護を学ぶ。		
授業内容	1. 歯科における看護の目的と役割、口腔、歯、歯周組織の形態と構造、症状、診断、疾患と治療。顎、関節、口腔軟組織の主な疾患と治療。 2. 高齢者の口腔ケア、予防、リハビリテーション等を講義します。		
評価方法	出席(10%)と試験(90%)		
教材・教科書	新体系看護学全書27-2 成人看護学⑭ / 歯・口腔 (メディカルフレンド社)		
留意点	歯・口腔の大切な機能を理解してほしい。		

科目名	疾病論Ⅲ(整形外科学)	科目コード	N20012
対象学年	2年	開講学期	後期 8時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員			
到達目標	詳細は初回の授業でお知らせします		
授業内容			
評価方法			
教材・教科書			
留意点			

科目名	疾病論Ⅳ	科目コード	N20013
対象学年	2年	開講学期	後期 18時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	鍵谷 昭文		
概要	<p>ここでは、口腔、食道、胃、肝、腸、肛門などの消化器から肺、脳、心・血管、内分泌系統の各疾患のうち、外科的に扱われる疾患について学びます。特に、講義では、これらの疾患の病態や症状に加えて、外科的治療(手術)が生体に与える影響や回復の過程を詳しく取り上げ、理解を深め、必要な看護処置が的確に行えるようにします。</p>		
到達目標	<p>女性の発達成熟過程の各時期における生理と病理を学び、その各ステージにおける看護者としての必要な知識の習得を図る。</p> <p>マタニティサイクルの各期の母体の変化と胎児発育の生理病理を学び、各ステージにおいて看護者として援助できるように学習する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生殖内分泌、性周期の生理病理 2. 骨盤内性器の解剖、診断検査法、月経異常など各疾患と看護 3. 女性生殖器疾患と看護 4. 更年期老年期医学総論、各論、不妊と避妊 5. 妊娠の成立、受精着床、胎児の発育 6. 妊娠の生理と病理 7. 妊婦健診、妊娠時の検査、周産期の感染症 8. 分娩の生理と病理、分娩管理 9. 産褥の生理と病理、新生児の取り扱い方 		
評価方法	期末試験(90%)およびレポート(10%)提出による。(鍵谷)		
教材・教科書	<p>参考書：医学書院系統看護学講座、専門13 女性生殖器疾患患者の看護 医学書院系統看護学講座、専門25 母性看護学各論</p>		
留意点	欠席しないこと、授業に関連することは予習すること、疑問点は質問すること。		

科目名	疾病論IV	科目コード	N20013
対象学年	2年	開講学期	後期 10時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	葛西 幹雄・貝塚 理子		
概要	小児科領域で見られる疾患、発育や発達の問題について講義します。疾患を理解し、正常な発育、発達に近づけていく看護力をつけてほしいと考えます。		
到達目標	各分野ごとに小児期に見られる疾患の病態や治療方法等について講義し、小児科患者の看護に必要な知識を理解することを目的とします。		
授業内容	<p>【葛西】 時間割 木曜日 5時限目</p> <p>1回目</p> <p>(1) 免疫・アレルギー疾患、膠原病</p> <p>(2) 感染症</p> <p>(3) 呼吸器疾患</p> <p>2回目</p> <p>(1) 循環器疾患</p> <p>(2) 消化器疾患</p> <p>3回目</p> <p>(1) 血液・造血器疾患</p> <p>(2) 悪性新生物</p> <p>【貝塚】 時間割 火曜日 5時限目</p> <p>1回目</p> <p>1. 先天異常 2. 新生児 3. 代謝性疾患 4. 内分泌疾患</p> <p>5. 腎臓、泌尿器、生殖器</p> <p>2回目</p> <p>6. 神経 7. 運動器 8. 皮膚 9. 眼科 10. 耳鼻咽喉科</p> <p>11. 精神疾患 12. 事故、外傷 13. 小児虐待</p>		
評価方法	学年末の試験(90%)と出席状況(10%)により評価します。		
教材・教科書	小児看護学(2) 小児臨床看護学各論 医学書院		
留意点			

科目名	公衆衛生学	科目コード	N20014
対象学年	1年	開講学期	後期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	三上 聖治		
概要	<p>環境問題をはじめとし、新しい感染症の出現、食品をめぐる問題、職業と疾病との関係、ライフサイクルによる健康状況の多様化など社会の進展に伴って緊急かつ複雑な対応を求められる公衆衛生学的事象にいかに取り組むかを考える。環境保健として、物理的、化学的、生物的、社会的環境と健康問題について、学習する。対人保健として、保健、医療、福祉が一体となっこそ生活環境改善が実現することを学ぶ。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生学で扱う用語と比率について理解することができる。 ・疾病分類について理解することができる。 ・環境と人間の健康についての関わりを理解できる。 ・人々の生活の場と健康問題の関係を理解することができる。 ・医療資源、マンパワーについて理解できる。 ・公共政策的な健康に対するアプローチの方法を理解できる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生学序論 2. 社会の変遷と健康問題の変化 3. 感染症の予防 4. 生活習慣病の予防 5. 生態系と環境 6. 物理的環境 7. 化学的環境 8. 生物学的環境 9. 地域保健活動と保健行政 10. 母子保健活動と保健行政 11. 学校保健組織と活動 12. 産業保健 13. 老人保健・福祉 14. 精神保健 15. 国際保健医療 		
評価方法	授業の対応 (10%)、レポート (40%)、試験 (50%)		
教材・教科書	教科書: シンプル衛生公衆衛生学 2013、南江堂 必ず事前に用意してください。		
留意点	遅刻は認めない。新聞やインターネット等で日常的に、健康問題に関心を持つこと。		

科目名	疫学	科目コード	N20015
対象学年	2年	開講学期	後期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	三上 聖治		
概要	疫学および統計処理の基礎を学び、人間集団の中で起こりうる様々な健康関連の問題を理解し、諸問題の解決のために必要な対策を樹立できる基礎的能力を習得できるようにします。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疫学の定義と集団に関する考え方を理解する。 ・ 論理的な考え方を見につける。 ・ リスクについての理解を深める。 ・ 疫学調査の設計と分析の理解ができる。 ・ 調査、研究の倫理についての理解を深める。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学事始め 2. 5つのW-bridge(What, Who について) 3. 5つのW-bridge(Where, When, Why について) II 4. 疫学研究の種類 5. 疫学指標 6. スクリーニング 7. 記述疫学 8. 分析疫学と推測統計学 9. 横断研究と生態学的研究 10. 症例対照研究 11. コホート研究 12. 交絡因子とその調整方法 13. 実験疫学と介入研究 14. 疫学研究と倫理 15. まとめ 		
評価方法	授業の対応 (10%)、レポート (40%)、試験 (50%)		
教材・教科書	教科書:看護疫学入門第2版、医歯薬出版		
留意点	遅刻は認めない。		

科目名	保健統計学	科目コード	N20016
対象学年	2年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	三上 聖治		
概要	<p>公衆衛生看護活動の重要な学問として、人間集団の中で起こりうる集団内の健康問題の発見と、調査の概要、調査の設計と分析などについて学ぶ。インターネットによる検索方法、フィールド・リサーチに必要な統計処理の基礎的能力を修得する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団的なものの見方ができる。 ・ 調査について理解できる。 ・ 統計表を理解することができる。 ・ 統計処理を計算機を使って行うことができる。 ・ 将来予測ができる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健統計学とは 2. 統計指標の見方 3. 人口静態統計 4. 人口動態統計 5. 調査 6. 統計分類 7. 保健指標(1) 8. 保健指標(2) 9. 傷病量の表現 10. 指標の標準化 11. 生命表 12. 年次推移の観察 13. 季節変動の観察 		
評価方法	授業の対応 (20%)、レポート (30%)、試験 (50%)		
教材・教科書	教科書は使用しない。		
留意点	遅刻は認めない。必要に応じて計算機を使うのでスプレッドシートの使い方を学習しておくこと。		

科目名	社会福祉論	科目コード	N20017
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	選択必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員			
概要	詳細については初回の講義でお知らせします。		
到達目標			
授業内容			
評価方法			
教材・教科書			
留意点			

科目名	地域福祉論	科目コード	N20018
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	選択必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	白戸 一好		
概要	域福祉の理念と意義、その推進方法、地域福祉の現状、地域と地域福祉の関係について系統的に学習する。また、社会福祉サービスのシステムとしての地域福祉の今日的課題、地域住民とともに進める福祉活動について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉基礎構造改革の理念と地域福祉の考え方について理解する。 2. 地域自立生活支援の方法と多職種連携のあり方について理解する。 3. 地方分権下における地域福祉の推進課題について理解する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉の歴史的展開 2. 社会福祉基礎構造改革と社会福祉法の理念 3. 地域福祉の基本的な考え方 4. 地域福祉の主体形成と福祉教育 5. 行政組織と民間組織の役割 6. 住民の参加と方法 7. ソーシャルサポートネットワークの構築 8. 地域福祉推進のための社会資源の活用 9. 地域トータルケアシステムの構築 10. コミュニティソーシャルワークの概念と機能 11. コミュニティソーシャルワークの展開プロセス 12. コミュニティソーシャルワークの実践事例〈1〉 13. コミュニティソーシャルワークの実践事例〈2〉 14. これからの地域福祉のあり方 15. まとめ 		
評価方法	出席点 50 点、試験 50 点		
教材・教科書	新社会福祉士養成講座「地域福祉の理論と方法」 中央法規出版		
留意点			

科目名	精神保健	科目コード	N20021
対象学年	1年	開講学期	後期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員			
概要	詳細については初回の講義でお知らせします。		
到達目標			
授業内容			
評価方法			
教材・教科書			
留意点			

科目名	研究方法論	科目コード	N20022
対象学年	2年	開講学期	前期 15時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	三上聖治・阿部テル子・木村紀美・齋藤美紀子・新田純子		
概要	看護研究の定義・意義、研究方法、プロセス等、 <u>研究に関する基礎的知識、方法を習得し、併せて論理的思考の基礎的能力を養う。</u>		
到達目標	<p>以下のことについての基礎的知識を理解できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の定義・意義について 2. 研究の方法・プロセスについて 3. 文献検索・検討の意義・方法について 4. 研究におけるクリティカルシンキングについて 5. データの収集、処理、分析・解釈について 6. 論文のまとめ方について 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の定義、意義、方法、プロセス (木村) 2. 研究とクリティカルシンキング (阿部) 3. 文献検索・検討の意義、方法 (新田) 4. 論文のまとめ方 (齋藤) 5. 研究データと統計処理1 (三上) 6. 研究データと統計処理1 (三上) 7. 同演習 (三上) 8. 課題学習 		
評価方法	<p>課題レポート (100%)</p> <p>課題レポートは、5名の授業担当者の課題の中から2名の課題を選択し、提出する。選択した2名の平均点を以って科目の点数とする。</p> <p>平均点が60点未満の場合は、選択した担当者のうち点数が60%未満の担当者の課題について再試験を受ける。</p>		
教材・教科書	<p>教材・資料は適時提示する。</p> <p>参考:神郡博編著 臨床実践に役立つ看護研究ガイド-基礎と実践- 看護の科学者、看護研究こころえ帳 医歯薬出版(三上)</p>		
留意点	<p>遅刻は認めない。</p> <p>必要に応じて計算機を使うのでスプレッドシートの使い方を学習しておくこと。(三上)</p> <p>レポート課題を選択するには、選択する授業担当者の授業に、授業時数の2/3以上出席している必要がある。</p>		

科目名	保健行政論	科目コード	N20019
対象学年	3年	開講学期	前期集中 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	高橋 一平・沢田 かほり・大久保 礼由		
概要	<p>地域保健の基本的な理念や考え方を理解し、わが国の行政制度の特色をふまえた上で、地域保健法に基づく新しい動向とこれからの活動について展望します。さらに、今後の地域福祉に向けての福祉サービスと行政機関におけるサービスのありようを検討する内容とします。</p>		
到達目標	<p>① 地域保健の基本的な理念や考え方を理解する。 ② わが国の行政制度の特色をふまえた上で、地域保健法に基づく新しい動向を知る。 ③ 今後の地域福祉に向けての福祉サービスと行政機関におけるサービスの状況を理解する。</p>		
授業内容	<p>1. 日本国民の健康状況について(その1) 2. 日本国民の健康状況について(その2) 3. 保健医療福祉行政総論 (1) 行政行為と行政の概念 4. (2) 保健医療福祉行政の展開 5. (3) 保健医療福祉行政の行政組織 6. (4) 国の保健医療福祉の体制 7. 保健医療福祉行政各論 (1) 健康増進・公衆衛生・医事行政 8. (2) 母子保健福祉行政 9. (3) 老人保健医療福祉行政 10. (4) 障害者保健医療福祉行政 11. (5) 産業保健福祉行政 12. (6) 学校保健行政 13. 医療制度 (1) 医療従事者、医療施設 14. (2) 医療システム、医療計画 15. (3) 医療費のしくみと医療経済</p>		
評価方法	試験の成績(100%)で評価する		
教材・教科書	「これからの保健医療福祉行政論」日本看護協会出版会		
留意点			

科目名	看護情報システム論	科目コード	N20020
対象学年	4年	開講学期	後期 30時間
必修・選択	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	三上 聖治		
概要	<p>日々行っている看護過程の情報化について理解を深め、看護情報システムの意義を理解するとともに、システムのあり方や可能性について今後の課題を扱います。</p> <p>また、チーム医療を機能させるために共有した情報についての判断能力とそれぞれの情報の持つ倫理的課題について理解します。さらに、今後ますます進展する電子化による効率性と危険性について考えることができる能力を身につけます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護課程における情報を活用することができる。 ・看護管理における情報を活用することができる。 ・看護研究における情報を活用することができる。 ・情報倫理を理解することができる。 ・医療情報システムを理解し、活用することができる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護情報システム論とは 2. 情報を活かすために必要な知識・技術 3. 情報リテラシーと情報セキュリティ 4. 看護におけるデータ・情報の特徴 5. 情報倫理 6. 患者情報の取り扱い 7. 診療や看護で扱う情報の種類と流れ 8. 病院情報システムの構成 9. オーダエントリシステム 10. 看護情報システム 11. 電子カルテの看護への活用 12. 医療情報システムと医療スタッフの関わり 13. 地域看護活動における情報の特徴と流れ 14. 看護用語の標準化 15. まとめ 		
評価方法	試験(100%)		
教材・教科書	教科書： エssenシャル看護情報学 ， 医歯薬出版		
留意点	パソコンの基本知識や操作、ネットワークの概念は把握しているものとして講義を進めます。		

